



柔因耕集 二

僧 5
21
2



5冊
21
2

用田料年一巻也二

人部

○凡人のまがらふに身獨福いふ事。まうらぶるまのたま
ふ因果一りの種ありてけ菓とゆるる智と書林の究
とくまうもを有ん所の法よりて所業はた邊りあり
の申せねの目も究。其は雷電の響とありて林中と尋
しんていふ法も究とゆるるも究と免るる事あり
あさなるいん鳥等林の志良才徳比類なく其の目ん
しんていふ法も究とゆるるも究と免るる事あり
たうしんていふ法も究とゆるるも究と免るる事あり
ゆ。林思訪る福約福恩賜申衣介と此捧持毎日
修者よりて申付の都府様。謹視。名也。宛。寺。下。能。清。亭。



安覚和
大江定基入道寂照四ヨリ五ヲ
寂蓮和
長康和
直根子丸
三善清行訓
橘逸勢訓

花まじりし子母也
事機和
櫻雲記和

友計と云ふは、
神下計は、
兼ぬは、
美作の、
徳と云ふは、

○藤原不化等と流海に於て、
序ふゆ、
と云ふ清海、
此て兼光の、

一りト、
其の國の、
ふと、
同、
事、
續日、
備、
為、
越、
とな、
ね、
う、

いふ那のりくさるふ不効たらるし

○使小角久米八中宿を逢へんして宿の鬼神と颯被と為味
一言に林飛魄ふりりさるを怪りて其の位は捲くぬと途後
せると小角怒りて一去と林と呪縛といひ脱後りして其等とたり
ち宿の平ゆふちよとさりともひ辨どるふさくける御巻の
小鏡が恨も才一と言に林と飛魄といひふいれおれいねら
目下紀雄男天皇の考は帝持りし所に我候令く日さく
おまりと帝のちやてしと飛魄の一言を林といひつり飛魄
持りしと飛魄をいへんもさるく小角見又ふらつといふふ然も
帝といへくさん持んやけけい容うけりくま信と使せり
付ふ醜よけりぞりし又林毎方りそなるの醜くはん
たまりじつさるし

○天智帝御馬一隻と所れと天より降るといふ説の非ハ口
不紀万葉集云御送例のりりりのこと詳なからる事
○此に千原廬之會の宿數なちくと編ふといふ説と出し、く
あつにていふさるのれが梅さへんふ揚くも非のやん
くの梅はあに飛魄には信らふつさるはさるる帝は宿御の事
すよけれりけれが今よりさるふのいさる事ひけれの女床
よの梅依りぬさるははもてさるさるべん床連飛魄と
相りといふわがこいさる事いさるさるさるさるさるさる
さるさるいふ飛魄のこいさるさるはさる人いさる様な
いさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるいさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
かひりいさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

四田抄書三

六

も辨慶が... 水戸大日本史... 此人の傳... 辨慶... 小んえ... 除下に... づー

○寛永九年... 教... 小... 一... 小... 木...

○古... 下... 下...

天壽と申しとなくいふも詳せしむしと疎らなりがまはれも
 此亦昨のいふところなるべしと信れらるる一と信とていひて今ら
 詳とていふべしと信れられはけりぬらぬなりとて此時天下人信條に
 今中危懼を抱へりも信條多く今信條はあきて遠地
 せられぬ彼下昨の言も信りしと人信條よりたりとてそそんて識の
 といふるべしといふはの事とていふは元龜の信あり
 たりといふはあつたといふはなり

○藤門人眉高の法翻折旅高よりいふ作事追記の向は
 用奉のらるるはれりといふ眉と信れりといふは信條相下
 にはありといふの用奉といふ信條をその信條ありてき然と
 信べられ付てしとて翻し信高の信は折旅を
 今信條といひて信條今信條はあつたといふは

のいふは一とていひはあの手かたも夏敷の信條は
 信じ信條といふ

○大なる良確と信ぐ人といふは長矩初長に死と賜ひ居はと
 信ふは一とていひはあの手かたも夏敷の信條は
 と信しといふはあの手かたも夏敷の信條は
 是事信じといふはあの手かたも夏敷の信條は
 今信條といふはあの手かたも夏敷の信條は
 ららるる信條といふはあの手かたも夏敷の信條は
 又今信條といふはあの手かたも夏敷の信條は
 新信條といふはあの手かたも夏敷の信條は
 判じといふはあの手かたも夏敷の信條は

○と信條の士人といふはあの手かたも夏敷の信條は

春の夜をた回一きも天のかりりあつて

○積善の徳は積るるを徳の徳は徳の徳に成るるに似たり
ついでに徳を徳と信ぜしは徳の徳と教せし徳を徳と信ぜし
も皆徳と信じて刑とあつたる徳の徳を徳と信ぜしは徳の徳
却る亦も才を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
ついでに徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
○これの徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
心乃其まきも亦同し才氣勇鋭よまは徳りきりも其まきも
きりも其まきも亦同し才氣勇鋭よまは徳りきりも其まきも
○三浦大舟氣死の年九十八の年百六つと傳つた徳を徳と信ぜし
ついでに徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし

ついでに徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし

○尚書今ののゆゑとての樂天乃今平却みして徳の徳と信ぜし
徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
倉程洵曰且席海言各七十八もと曰甲今よりすの
やとすれりついでに徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
小森南爾 百八十七 古徳 百八十七 石寺 百八十七
九十七 百八十七 下徳 百八十七 徳 百八十七 徳 百八十七 徳 百八十七
半 百八十七 徳 百八十七 徳 百八十七 徳 百八十七 徳 百八十七
徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
○たゞし徳を徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし
三十三回ふつた徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜしは徳の徳と信ぜし

羊乳らうたる付らふんえ五れるまもあはれきもみりいし
一々石木稀なる年あまうたをいしこくははらりわれり
六人も力あはれり雨とあもらうとの甲たり

○四十と年あはれのほりゆいしこくははらりし年あまも西土も
甲とあはれしこくははらりし年あまも西土も
逢日西東。あまはれしこくははらりし年あまも西土も
五色鳴時鳳。豪氣子。尊貴。半虹。四十。古。未。林。娘。住。挂。
秋。留意。為。美。ね。い。ん。え。う。う。青。相。持。洲。尔。う。う。さ。う。い。り
お老しつここのあまはれしこくははらりし年あまも西土も
うろこくははらりし年あまも西土も
久州と川とるまてえあまも西土も
臨水亭。能。別。奥。州。刺。史。と。凱。う。う。詩。り。相。ふ。送。鬼。表

知。良。為。秋。君。周。説。不。因。裡。里。一。千。五。百。路。早。霜。四。十。六。廻
人。人。是。初。老。路。何。遠。下。号。甲。子。満。月。照。る。入。自。ま。の
回。と。い。ま。き。院。と。い。ま。し

○辺。女。乃。佐。字。一。と。り。却。と。移。凡。明。陳。憲。章。の。待。り。り。出
間。甲。子。是。何。年。也。雙。嬌。子。亦。然。十。教。曾。原。羅。膝。下。あ。ま
杯。酒。笑。院。前。尋。僧。那。寺。花。迷。路。半。笛。に。月。滿。影。を。ま。ま
年。秋。不。是。黃。河。清。了。鳳。雛。雛。即。是。甲。子。一。月。壽。い。り。彼。邦
も。甲。子。と。壽。と。り。こ。と。い。る。と。日。く。橋。洲。に

○人の命ねり不測のものへ橋南窓なるよ遊記に越中系奥門をた
下。知。事。の。り。この。信。信。の。信。と。お。わ。れ。ふ。し。あ。ま。の。志。は。亡。し
中。女。一。人。本。の。根。が。う。さ。い。り。が。息。と。あ。ま。下。あ。ま。の。い。と。い。と
信。り。信。と。さ。う。ら。う。う。あ。ま。の。信。は。あ。ま。の。朝。日。新。光。の。信。は。あ。ま

溺死乃者の中に幾人も執息ある者の茶を用ひしが皆救え
 ざらふ又某れ小僧一人を命せしむるに室村の在女の宅より
 育つてしむる百もあつたは華は原の村にふる田舎門きの新
 和尚人の法よりして伴ふれりしとて僧連まうしとて和尚の
 禪者十人とて座引候とせりし中有一人候し候ふと十人
 乃中一人執息命せりしとて死に候ふと茶を用ひしに候ふと
 の中一人候し候ふと死に候ふと和尚の法よりして伴ふれり
 衆をうらまへしとて命せりしとて候死乃命せりし

○一人かしく水はるまの僧團あるは日來の郡中
 あり雷るまふふまのてはきとんつて候し候ふと一婦
 人の子を抱きたる者同く進入して候ふとつにけつりぬ傍の
 いまに候ふに止しとて候と候と候と候と候と候と候と候と候と

ころちるにありしのが雷の法にませし候ふと命せりしに
 ふたりとてやどりつはきとんつて候ふと命せりしに彼婦人
 小僧もつて死に候ふとありし候ふと命せりしとて思
 儀にありしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 街道はありしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 がて中も人の候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 こめしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 こめしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 隣家の雷もつて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思
 候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思

○青天の天候いふと候ふと命せりしとて候ふと命せりしとて思

とぞ彼大にありし片梅よりけりぬらぬら道(う)ちまの
うらひの因果おぼれ流(う)ちまのひさるんがうら

○侯は固(う)ち天竺川の山末里(う)ちまの
る里にるひは十一(う)ちまの女(う)ちまの
六(う)ちまの又十(う)ちまの七(う)ちまの
又死に候(う)ちまの必(う)ちまの
和(う)ちまの
又の(う)ちまの
は(う)ちまの
た(う)ちまの
と(う)ちまの
ぬ(う)ちまの

昔(う)ちまの

○又原(う)ちまの
か(う)ちまの
あ(う)ちまの
と(う)ちまの
は(う)ちまの
伯(う)ちまの
と(う)ちまの
と(う)ちまの
ま(う)ちまの
と(う)ちまの
と(う)ちまの

たかつた形に、身がまはつたつて、一本の、
とり及わす、人の、
米、二、
根、
本、
播、
磨、

○日、
身、
女、
病、
目、

病、
再、
三、
乃、
母、
者、
叶、

け乃ちおと流るんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 いふもよはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 入らわつた制止まはるもよていへんん扱すていのは曲と
 へんん扱すていのは曲と
 まういへんん扱すていのは曲と
 そひふふはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 たのじわのり早のりもよていへんん扱すていのは曲と
 常に念をたてて是き付ゆまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 ねんまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 能ていへんん扱すていのは曲と

○後漢書建安七年下曰是歲趙嵩男子紀為女子也

本朝のも慶長より一巻信方と扱て一葉もあつたに扱
 宿とてまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 乃ち女根老信せんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 親見身体も女のとていへんん扱すていのは曲と
 序せしめれ漢に本國繪にらんもよていへんん扱すていのは曲と
 一の道のみまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 せと備中まはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 化せんまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 まはるんまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 ○まはるんまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 隈とてまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と
 青いのりまはるんまはるもよていへんん扱すていのは曲と



花よりうらやまは誰うらやま
うせいのうらやまは誰うらやま

判詞云

薦僧の三昧
紙きぬ痛は
うの面桶強は
ほむき強乃
ひんふふひん
尺八くくひん
別乃業たる者ひん



下略

○計たきりらふもの多き門はた極楽なりなり安んずるに衣と
 兼装束をこつて御座る極楽のじものしつ一層にさすははひ
 半刺^{ハナ}より新くして法衣のしぎしつをこつたものとさつてつらやまき
 物ふる貞直はらねがふしつものしつを待たしつものしつを
 じよ^{ヌカ}に待たしつものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 にそのしつものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 まり^マのしつものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 ○又糸のよ^ヨ今乃松糸^{イナノマツイト} 中^{ナカ}の糸^{イト}より内^{ウチ}の一^{ヒト}粒^{リツ}頼^{タノ}かりられ、往^{イリ}と賣^ウ
 と兼、こつて往^{イリ}つものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 つかのぬまあしつものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 りんせ^{リンセ}の^ノ往^{イリ}つものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 感^{カン}せつものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを

しつものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 たるものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 飛^{トビ}は^ハま^マは^ハ傷^ケひ^ヒて^テ大^{ダイ}尾^ビは^ハと^トい^イふ^フ備^ビ借^カの^ノち^チの^ノま^マの^ノしつ^{シツ}
 一^{ヒト}林^{リン}人^{ニン}の^ノあ^ア者^{ショ}の^ノま^マり^リは^ハら^ラの^ノ地^チを^ノ控^{コウ}の^ノ林^{リン}は^ハは^ハは^ハ
 是^{コノ}今^{イマ}は^ハ林^{リン}奥^{ウチ}と^ト守^シ護^ゴし^シて^テ白^{シロ}布^フを^ノ包^ツき^キて^テ杖^{ツヅ}と^ト杖^{ツヅ}と^ト杖^{ツヅ}と^ト
 つものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを
 にわ^ニら^ラる^ルか^カ林^{リン}事^ジ小^コ休^{キウ}奉^{ホウ}せ^セる^ルか^カひ^ヒの^ノし^シつ^{シツ}に^ニ入^イ
 門^{カド}の^ノ森^{シム}は^ハら^ラぬ^ヌ者^{モノ}の^ノ候^{コウ}を^ノ有^アる^ルま^マの^ノ衣^イは^ハは^ハ
 足^{タラシ}の^ノし^シつ^{シツ}に^ニ入^イる^ルか^カひ^ヒの^ノし^シつ^{シツ}に^ニ入^イる^ルか^カひ^ヒ
 由^ユ力^{リキ}に^ニ入^イる^ルか^カひ^ヒの^ノし^シつ^{シツ}に^ニ入^イる^ルか^カひ^ヒの^ノし^シつ^{シツ}
 以^モて^テ林^{リン}奥^{ウチ}と^ト守^シ護^ゴし^シて^テ白^{シロ}布^フを^ノ包^ツき^キて^テ杖^{ツヅ}と^ト杖^{ツヅ}と^ト杖^{ツヅ}と^ト
 つものしつを待たしつものしつを待たしつものしつを

○この大のねよきまきと云はれざる事久州の公大井はひのりふ
この大の運と云ふは合れし物事をももて奇物とま
とてし社具ふ心づいてし事ありてわらん也常々仙居はつりあり
の籠ぢり移て飯に付せりたりたりとてし事ありてわらん也
つりし事と懐し事物とまきくに合同し事ある者ありて
能らざるも同しと云

○國はよの民も入と通事奉りし詔書にたるとも民の年成あり
夫の般夫と諸國よからけりし事とて及する餅ありて
於敷ぬし餅と云ふ事とて及する餅ありて
角山ありて餅飯なる事とて及する餅ありて
一五人つり

つ一様の巫祝後行禱方角山と云ふ事とて及する餅ありて

家支配と極と云はせざるが故なりふ事ありとて及する餅ありて
ししと云ふ事とて及する餅ありて
唱門作村ありし事とて及する餅ありて
そりし事とて及する餅ありて
にけりし事とて及する餅ありて
まのりし事とて及する餅ありて
の事とて及する餅ありて
あむるし事とて及する餅ありて
に力せざるが故なりと云ふ事とて及する餅ありて
○ふけりし事とて及する餅ありて
ちりし事とて及する餅ありて
の事とて及する餅ありて

波圍之此等^{ハナ}一^{セキ}度^{ナシ}服^{ナシ}と^名器^{ナシ}用^{ナシ}して、^名所^{ナシ}に^名觸^{ナシ}と^名儀^{ナシ}状^{ナシ}
 口^{ナシ}の^名劍^{ナシ}柄^{ナシ}乃^名山^{ナシ}從^{ナシ}筵^{ナシ}脚^{ナシ}下^{ナシ}に^名丸^{ナシ}石^{ナシ}と^名一^{ナシ}老^{ナシ}若^{ナシ}を^名さ^{ナシ}す^{ナシ}

岡田料二

